

経営者への活きた言葉

二つの規範を貫いた孔子

1. 孔子は3歳の時に父が亡くなり、母子二人で暮らす。生活は苦しかった。少年孔子は倉庫係や家畜係を務めた。そういう生活の中で、15歳の孔子の心に湧き上がってくる思いがあった。聖賢の学に学んで自らの身を修め、人を導き、国を治め、平和な世の中を創ろうという思いである。その思いを持続して、30にして一門を成し、40にしてその思いをさらに強め、50にしてそれを天命と自覚し、自らの人格の完成、成熟を目指して一生を終えた。
2. 孔子は2つの規範を大事にして一生を歩んだ。一つは忠恕^{チュウジョ}である。忠とは中する心。一体になる心である。何事にも誠実に全力を尽くす。全身全霊で事に当たることである。その心と人に向けた時に恕、思いやりになる。忠も恕も一つである。
3. もう一つの規範は、「天を怨^{ウラ}まず、人を尤^{トガ}めず、下^{カガク}学して上達す」。孔子の人生にはいやなことも辛いことも理不尽なこともたくさんあった。しかし、何があっても天を怨まず人を尤めず、日常の下世話げせわな苦勞に学んで自分の徳を磨いていった、ということである。孔子はその生涯をこの二つの規範をもって貫いた。
この規範は今日を生きる私たちにも大事な人間の要諦^{ヨウテイ}である、と思うのである。

(参考:「致知」2011年 12月号)

経営者のための危機管理

価格競争ばかりの会社は倒産する

1. 販売不振による中小企業の倒産が日増しに増えている。帝国データバンクの調べによると 2011年度上半期(4月～9月)の企業倒産のうち、販売不振が原因と見られる倒産の割合は80.4%。80%を上回ったのは初めてのこと。大型倒産が相次いだ2000年当時でも、70%台だった。
2. また、価格競争ばかりしている企業は、その後大抵が傾く。理由は明白で、価格競争の末に勝ち残るのは、資本力のある1社だけだからだ。安さ以外に自社の強みを打ち出せず、断続的に値下げばかりしていたのではいずれ体力を使い果たす。値下げで目先の仕事を確保したい誘惑を抑え、価格競争から脱却する手立てを早急に模索したい。

(参考:「日経トップリダー」2011年11月号)